２年半前、中山市長も地対艦ミサイル持ち込みに反対しました。

新川在住　笹尾哲夫　2016 年 2 月 18 日　FB 投稿

八重山日報　2013年（平成25年）10月24日　木曜日

ミサイル受け入れ難色

中山市長「違和感ある」

防衛省統合幕僚監部が11月に九州、沖縄で実施する自衛隊の訓練で、石垣島に地対艦ミサイルを機動展開する計画に対し、中山義隆市長が難色を示していることが23日分かった。中山市長は八重山日報の取材に対し「現時点で詳細は聞いていないが、報道を見る限りでは違和感がある」と述べた。既に防衛省に対し、沖縄防衛局を通じてミサイルの機動展開を受け入れない考えを伝えている。防衛省の広報担当者は石垣島での地対艦ミサイルの機動展開について「まだ調整中」としている。訓練は離島侵攻への対処が目的で、尖閣諸島問題で対立が激化する中国が念頭にあると見られる。

自衛隊、11月に訓練

同省などによると訓練は11月1日から19日まで沖縄本島、久米島、宮古島、石垣島、対馬など九州・沖縄各地で実施され、陸海空3自衛隊の隊員3万4千人を動員。石垣島には九州から200人規模の部隊が新港地区に展開する計画。

陸自の地対艦ミサイルは「88式地対艦誘導弾」で、射程は百数十キロメートルとされ、尖閣諸島周辺海域も射程に収める。石垣島での機動展開は尖閣周辺で挑発活動を強める中国をけん制する狙いがあると見られる。

八重山防衛協会の三木厳会長は「中国は沖縄周辺で艦船を通過させ、無人機を飛ばすなど活動を活発化させている。（ミサイルの機動展開は）防衛省の専門家が必要だと判断したのではないか。市長は住民感情として待ってくれと言ったのだろう」と話した。

訓練では、地対艦ミサイルを陸自那覇駐屯地、空自宮古島分屯基地へ機動展開することが決まっている。

2012年12月には北朝鮮の長距離弾道ミサイル発射実験を受け、自衛隊が新港地区にPAC3（地対空誘導弾パトリオット）を配備。この際には、石垣市は全面的に配備に協力した。

昨年11月には大規模災害などの非常時に、石垣島と沖縄本島、九州などとの通信が正常に作動するかを確認する陸上自衛隊西部方面隊の通信訓練がバンナ公園などで実施された。

関係者によると、今回の訓練は離島侵攻への対処を目的に、より実戦的な内容になっており、石垣島に展開する予定の部隊もより大規模になっている。

2012年4月、PAC3の配備に伴い新港地区に展開した陸上自衛隊の部隊（資料写真）

地対艦ミサイルに反対

報道受け中山市長「PAC3とは違う」

中山義隆市長

陸・海・空の自衛隊が11月に全国規模で行う統合演習で、射程が100㌔以上ある地対艦ミサイルを石垣島に展開する方向で最終調整に入っているとの一部報道について中山義隆市長は22日、八重山毎日新聞社の取材に「何も聞いていないが、（打診があった場合は）反対する」と明言した。

反対する理由について中山市長は「落下物を打ち落とすPAC3とは意味合いが違う。地対艦ミサイルは攻撃するものなので反対する」と述べた。中山市長は、北朝鮮の弾頭ミサイル発射実験に備えた地対空誘導弾の配備を認めていた。

一方、「何も聞いていないので、防衛省には説明を来てもらいたい」と述べ、早急に確認する意向を示した。

地対艦ミサイルは艦船を対象にしたもので、誘導弾の射程は100㌔以上。石垣島からだと尖閣諸島周辺海域まで射程に入るため、日本の領海に侵入を繰り返している中国をけん制する狙いもあるとみられている。

市議会与党の1人は「尖閣問題では対話の窓口を設けようと努力しているときに、地対艦ミサイルはあり得ない」と報道内容に疑義を呈した。

野党の石垣三雄氏は「与那国への自衛隊配備、石垣市への自衛艦入港、PAC3配備などの延長線上にあるとみなければならない。外交ではなく軍事力で解決しようとする姿勢を懸念する」と話した。

PAC3の配備を認める一方、地対艦ミサイルに反対する中山市長の姿勢に石垣氏は「PAC3も地対艦ミサイルも本質的に変わらないのではないか」と首をかしげた。

2013 年 11 月の自衛隊統合演習で、石垣島に地対艦ミサイルを展開する計画がありました。この時、中山義隆市長は、きっぱりと「地対艦ミサイルは攻撃するものなので反対する」と述べ、防衛省は石垣島への持ち込みを断念しました（宮古島には展開）。

いま防衛省が石垣島に配備を計画している陸上自衛隊基地の最重要部隊は、地対艦ミサイル部隊です。隊員が約 100 名ですから、ミサイル発射台搭載車両は おそらく 10 台以上でしょう。ひとつの発射台から同時に 6 基のミサイルを発射します。２年半前の 88 式に比べて、現在の 12 式地対艦ミサイルは、射程も命中 精度も向上し、もちろん尖閣諸島周辺を優に射程に収めます。相手方艦隊への攻撃性能は更に高まっています。そんなミサイルの基地を常設したら、尖閣有事の際に、この島に何が起こるでしょうか？

写真は、13 年 10 月 24 日付けの新聞記事です。右上が八重山日報、左下が八重山毎日です。ぜひ拡散してください。